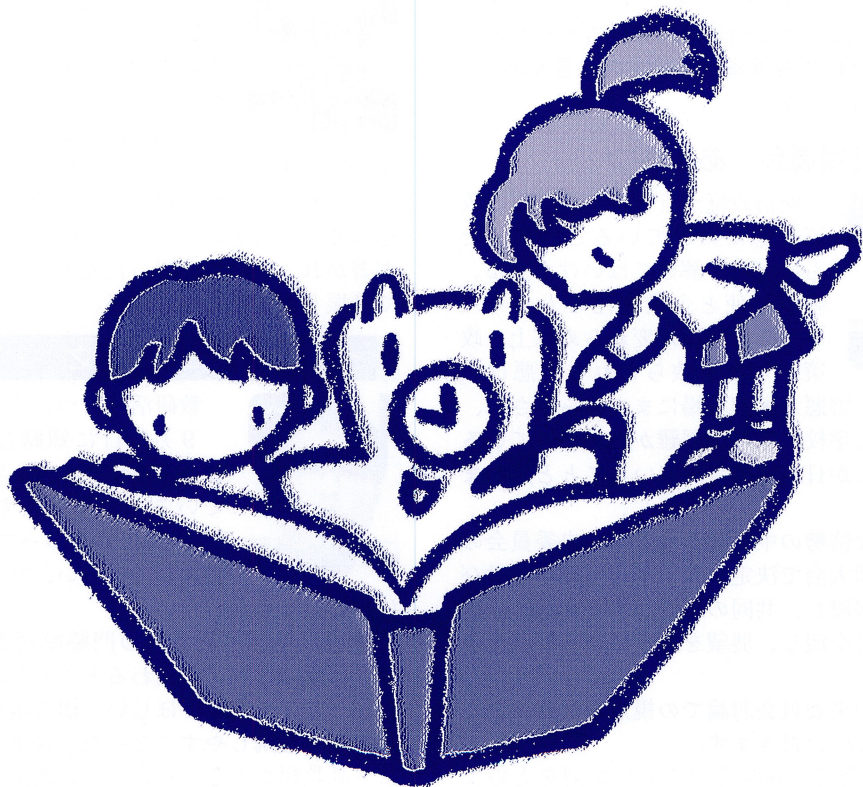


道 教 組

▶ DOKYOSO NEWS vol.496



道教組第27回中央委員会開催

後半期の方針確立

道人事委員会は第三者機関としての責任を果たせ!

「全国学力テスト」による過度な競争教育ではなく、
学ぶ意欲・能力・個性を引き出す教育を

わたしのとっておき

道教組第27回中央委員会開催

後半期の方針確立

9月13日、道教組第27回中央委員会が札幌市内で開催され、全道から中央委員が集まり、前半の総括と後半の活動方針を論議し、全員一致で承認されました。

その後、梶木書記長が当面闘争について提案し、新保副委員長の2013年度決算報告が行われました。討論では、中央委員から19本の発言があり、いくつかを紹介します。

◆西野執行委員長 あいさつ



安倍政権が「教育」を重要な政策課題にあげていることに私たちは警戒を解いてはいけません。戦争行使と企業奉仕の人づくりを進める政策が変わらぬ以上、政策からまき散らされる害悪はと

まりません。害悪が学校現場にまき散らかされ、子どもたちと学校に多くの困難がひろがっている事はみなさんが日々実感されていることと思います。

このような情勢の中で開かれる本中央委員会の使命は、定期大会で決定した、子どもたちの学びへの参加を保障し、共同の学校づくりの具体的運動をおおいに交流し、展望を豊かにひろげ深め合う事です。

そこで本中央委員会討論での視点を3点にわたり述べさせていただきます。

第1は、『全国一斉学力テスト』が何をどのように変質させ、子どもと学校に悪影響を与えているかを分析する視点です。

第2は、『全国一斉学力テスト』体制と多忙化政策。勤務評定・教員評価と賃金差別の導入のなか、教育の専門家として教職員の仕事の質はどうなっているのか。それと重なり合う教職員の生き甲斐はどうなっているのかを分析する視点です。

第3は、子どもたちと『学校』を守るための共同がどのように広がり、どのような困難が生まれているかを分析する視点です。

以上の3点を情勢と他の運動との関連でとら

え、本日の中央委員会で深め合しましょう

全石狩札幌教組 佐々木 一次



今担任外。職場では超勤が解消されない状況がある。超過勤務について校長と話し合い、割振り変更の拡大、個別付与について年度始めの話し合いを行った。

学期始めの交通指導では、15分早く出勤するので割振りを要求した。去年はできなかったが、今年は朝の早朝出勤した15分を早く帰っていいことになった。その場合は黒板に名前が書かれ、4時半に帰った先生もいる。個別付与で割振りできたことは成果。

全釧路教組 高橋 浩之



教研活動について発言します。

9月20日に釧路合研を開催します。近年だんだん参加者が減っているのも先生たちだけでなく教育にたずさわっている方にも参加してもらい、もっと多くの人に参加してもらいたい。

茨城県美浦村教育長の門脇厚司さんの話を聞き、行政のトップが変わるとこんなに変わるんだということを聞いてほしい。組合事務所を高教組が入り、連携しやすくなった。合研の実行委員会にも高教組が入り、保育士、弁護士さんとの連携もできてきました。後半は教研活動で頑張ります。

空知教組 平川 美和



昨年4月に北教組をやめ、空知教組に加入しました。加入する前は、何かあったら助けてくれる組合というイメージがありました。加入した後、これで良かったのか迷うこともありましたが、全国教研に参加してとても良かったです。やっぱり組合は「人」なんだなあと思います。

今いる人を大事にすること。最近空知中央支部の会議が楽しみ。全員参加で組合が楽しくなってきました。

根室教組 中島 義夫



50人の職場に4名の組合員がいます。昨年「君が代」の指導について職員会議で論議になり、若い先生が反対してくれた。

私は全教共済で頑張り、今の職場で10名以上加入者を増やし、仲間として話す場が持てるようになった。人事の関係で悩んでいる先生がいて、それをきっかけに今週声をかけたところ、加入してくれた。委員長にも言ってなかったけれども。

今後、みんなに見える組合にするために、通信などでもっと発信していくことが大事。

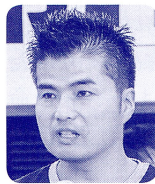
檜山教組 市来 健



江差では町長選挙があり、全国で一番若い町長が誕生しました。江差支部（檜山教組）は特定の政党や個人は応援しないのですが、教育にダイレクトに関係するので、4候補に公開質問状を出した。これが当選したときの公約にもなる。その後、町が二分され定数11のうち6名が反町長派。これからのいろいろな場面で町長と話し合うことを約束してきた。

教員の勤務実態を町長にも知ってほしい。校長に提出する要求書をみんなで話し合いながらつくっている。

全上川教組 中村 徹



8月23日に梶木書記長にも参加してもらい、学習会「今だからこそ組合」を開催しました。梶木書記長から「自分たちのやってみたいことを紙に書いてください」と言われ、その後発表しました。

「合唱がしたい、本の交換会、韓国旅行、単組と交流して旅行したい、…」みんなのやりたいことができれば楽しい。

今回は元気になる学習会がしたいということで「何で道教組を選んだのだろう」とみんなに聞き

たかった。ある先生は「高校生の時から組合の赤い旗を見るとわくわくしていた」などの話を聞いて元気が出ました。

宗谷教職員組合 河合 一臣



臨探部の部長をしています。10回も採用試験を受けている間に内容も変わってきました。

宗谷では1月から教員会館で採用試験の学習を始めています。内藤書記長が過去問を分析し、指導してくれます。みんなで教え合いながら学んでいます。

札幌の教員採用学習会では、集団面接や模擬授業をみんなに見てもらい、場に慣れる意味で大事でした。その結果自信を持って採用試験に臨めるようになっていきます。来年は（臨時教員のまま）この場に立っていないようにしたいです。

<討論のまとめ> 梶木書記長



討論の特徴は、網走・釧路・上川・宗谷などで学ぶ活動が位置付けられ、自分たちの学びたいという要求が実現されていることです。

2つめは、学校・先生・子どもの様子が語られたことです。子どもたちが追いつめられ悲鳴をあげている。どうしてそうなっているのか心を砕いて子どもたちと接すること。どうしたら子どもに希望を持たせることができるのか。そのためにも、教師自身が希望を持って仕事をしているかが重要になってくる。

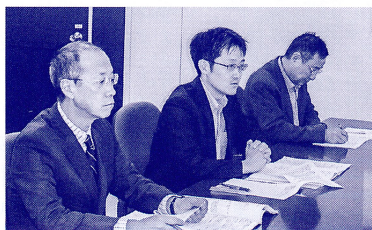
3つめは、多忙化の中で否応なしに言われた仕事をこなすのではなく、子どもたちのために自分たちで判断し自律して仕事をしたい。「『おかしいことにはおかしい』と言えることが大事」と討論でも話されました。それを応援できる道教組になりましょう。

朝の交通安全指導で割振り変更を勝ち取ったことは、超勤解消のひとつとして大事。檜山・網走から要求書づくりのとりくみが語られました。

※なお、議案はすべて全会一致で可決され、当日提案の特別決議も満場の拍手で可決されました。

道人事委員会は第三者機関としての責任を果たせ！

8月に人事院勧告が出され、それを踏まえてわれわれ地方公務員の賃金改定について、北海道人事委員会から勧告が出されます。勧告時期は例年10月上旬です。



交渉に臨む楢木書記長：中央

それに向けて、道教組や道高教組、自治労連、北海道国公などで構成している「北海道公務共闘連絡会」が、道人事委員会と9月に3回（11日、18日、25日）交渉しました。

なお、2回目には「署名」を2,513筆（道教組755筆）道人事委員会藤岡事務局次長に手渡しました。その時の交渉内容を報告します。

▶ 国家公務員はプラス勧告だが、われわれは？

8月の人事院勧告では、「1,090円、0.27%」の官民較差にもとづく月例給改定、一時金を0.15月引き上げ年間4.10月とする7年ぶりのプラス勧告が出されました。

交渉では、すでに今年度の勧告が出された名古屋市（1,039円）や神戸市（1,014円）、さらには福岡市（591円）の「引き上げ勧告」を例に出し、16年目に入った道独自削減や消費増税、連続した物価上昇で苦しんでいるわれわれ地方公務員の生活実態をしっかりと見るよう求め、道人事委員会は第三者機関として責任を果たすよう強く求めました。

それに対し道人事委員会は、「他自治体、国、民間給与の動向など、給与決定に関連する諸事情を十分勘案しながら検討している」の回答に終了しました。（9月18日の回答）

▶ 「給与制度の総合的見直し」は必要な見直し？！

今年の人事院勧告で焦点となった、国家公務員だけでなく公務労働者の総人件費削減につながる「給与制度の総合的見直し」について、われわれは道人事委員会の見解を問いました。

すると道人事委員会は、それは「給与構造の基本的な部分に係る見直しである。そして総務省から出されている『地方公務員の給与制度の総合的見直しに関する検討会』の中間報告を重視し、それを踏まえた給与の検討が必要である」と、国の公務員賃下げ要請に積極的に応える姿勢を表明しました。（9月18日の回答）

憲法28条が保障する労働基本権は、われわれ公務員にとって制約されています。その代償機関として人事委員会があるわけですが、その役割を果たしていないと言っても過言ではありません。

▶ 教員の査定制度は、必要な仕組み？！

現在道教委と制度の具体的運用面について事務折衝をすすめている「査定昇給制度」ですが、これについても評価期間末日である12月1日に間に合わないタイトなスケジュールである状況で公平・適正な評価などできるわけではないと、道教委へ来年1月スタートにこだわるなどと言及するよう求めました。

ところが道人事委員会は、「査定昇給制度は、職員的能力を発揮させ、活力ある組織づくりのためにも必要な仕組みであると考えており、各任命権者（教員にとっては道教委）において職員の勤務実績評価を公正かつ的確に行うことを前提としつつ、職員の理解を得ながら制度運用が円滑になされることを望ましいと考えている」と、まったく協力・共同ですすめる学校教育現場を知らずに、そしてこの査定が入ると学校・教育が壊れていくことをイメージできない回答でした。

さらにわれわれは、成果主義賃金を導入した民間企業が「査定制度は問題だ」と回答している厚労省調査（2012年就労条件総合調査）も示しましたが、「民間のことには答えられない」という道人事委員会でした。

▶超勤縮減対策は重要な課題 今年の「報告」で言及

超勤縮減対策は遅々としてすすんでいません。時間外勤務の根絶に向けた有効な具体的指針を任命権者に示すよう、檜山教組中山書記長の現場発言も交えて強く求めました。



厳しい超勤実態を告発する
檜山教組中山書記長

◀檜山教組中山書記長の発言要旨▶

教職員には時間外勤務の概念がなく、「子どもたちのために」という言葉に弱い。共済

業務からわかることは、近年、心筋梗塞や内臓疾患、精神疾患などからの緊急入院、長期病休者が増えている。全教の「勤務実態調査2012」から教諭の月平均時間外労働が95時間32分だという実態が明らかとなり、これは10年前と比べ10時間も増えている。私たちの働き方をちゃんと調べてほしい！学校現場は、チャレンジテストや研究指定校など、トップダウンで下りてくるものに追われ、すべては全国学力テストのランキングに収れんしている。こんなことは決して子どもたちのためにならない。学校はブラック学校化している。道教委の超勤縮減対策は遅い。何とかしてほしい！

この他にも、再任用制度について、希望者が再任用されていない実態があることから、任命権者に適切な対応を求めるよう要請しました。

しかし道人事委員会は、「任命権者の権限であるから、当委員会が対応を求めることは難しい」と、無責任にも聞こえる回答をしました。

第30回全道女性学習交流集会開催

楽しく憲法学習、分科会で権利とものづくり

9月6日、札幌市内において道高教組・道教組・札幌教職員の会共催で、第30回全道女性学習交流集会が開催され、道教組から8名の女性部が参加しました。

午前中は、若手弁護士の神保大地さんによる記念講演「くらしと教育に憲法を～女性と憲法～」。最初はクイズ形式で始まり、女性の権利が憲法でどのように位置づけられているのか分かりやすくすすめられました。斬新な神保弁護士の語りに参加者もどんどん引き込まれていきました。

午後は2つの分科会「女性部アンケートから見えてくるもの」「体験型分科会～ものづくり～」に分かれ交流を深めました。

「女性部アンケート」の分科会では、アンケートも使いながら参加者の職場がどうなっているのか、アンケート結果からまだまだ女性にとって働きにくい環境だとわかりました。

「体験型分科会～ものづくり～」分科会では、紙コースター、はし入れ、はしおき、ポケットティッシュ入れ、どれも楽しい「ものづくり」でした。



「全国学力テスト」による過度な競争教育ではなく、 学ぶ意欲・能力・個性を引き出す教育を

私たち道教組は9月5日、道高教組などを含めた11団体名で、全国学力テスト結果公表に対し、「見解」を発表しました。

わずかな点数の差で一喜一憂すること自体の無意味さ

文部科学省は8月、全国の小学6年生と中学3年生を対象に行った2014年度の「全国学力・学習状況調査」（「全国一斉学力テスト」）の結果を発表しました。それによると、全国平均と比べ北海道の小学校では1.1～3.0点、中学校では0～1.4点の差しかなく、立川宏道教育長は、「一定の改善がみられた」とのコメントを発表。

そもそも、序列化した全国順位を争うことにどれほどの意味があるのでしょうか。点数と順位に執着し、わずかな点数の差で一喜一憂すること自体の無意味さを文科省・道教委は今こそ考えるべきではないでしょうか。

競争主義教育により、教育だけでなく子どもたちの発達までもが歪められています

2011年、道教委は「平成26年度までに平均正答率で全国平均以上にする」という学力向上の方針を決めました。その具体化として各学校に「チャレンジテストの強制、過去問の活用、宿題を増やすことの指示、家庭学習時間を増やすこと、早寝・早起き・朝ごはん、テレビの時間を減らすこと」を求めるなど、子ども、保護者、教師にテスト対策や、家庭の事情などお構いなしに一方的な生活習慣が押しつけられています。子どもの中のいじめ、精神的障害、不登校・登校拒否、中退および自殺などが日本に多い原因は、過度な競争教育が起因していると、国連子どもの権利委員会から指摘されているのです。

学校別の公表が行われると、学校の序列化や過度な競争に拍車がかかる

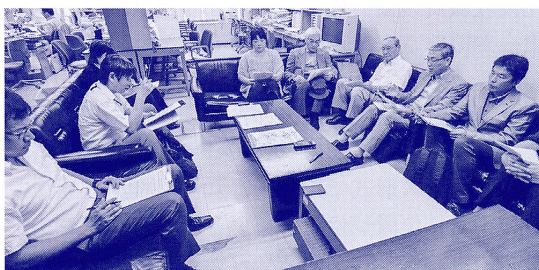
学力テストは、子どもの理解やつまづきを指導者が把握し指導法の改善に役立てるものであり、その順位が子どもたちの人間的成長を表すものではないことは教育の原理に基づいて考えれば明らかです。

今年度から文科省が自治体の判断による学校別成績の公表を認めることにしました。北海道においてもいくつかの教育委員会が公表する方向で検討を始めており、まさしく学校間の序列化につながる恐れが現実味を帯びてきました。

子どもの学ぶ意欲・能力・個性を引き出す教育を大切にしましょう

教師が恒常的に、子どもの悩みや心の叫びを受け止めることができるよう、ゆとりある教育環境こそ必要です。そのためには、少人数学級や教員定数増などの教育条件整備が大切です。

今求められているのは、子どもの学ぶ意欲・能力・個性を引き出す教育であり、全面的な発達を保障し、多様に伸びていく子どもたちの育成が大事にされることです。



《「見解」を発表した11団体》

道教組・道高教組・道退教・高退教・新婦人・道労連・自由が丘学園・道民の会・北海道子どもセンター・高校センター附属研究所 DC | 札幌セクション

網走教組・全石狩札幌教組が宣伝・署名活動

網走教組が教育全国署名でスタート集会開催



スタート集会は、委員長の挨拶、次に、道教組から来ていただいた梶木書記長から情勢の報告

がありました。その中で、自治体によっては独自に30人学級を実施しているところもあるということです。その後、今年度の目標・日程などを確認し、網走支部からは、高教組とのとりくみを進めていくとのことでした。遠軽・紋別支部からは、日程が決まっていると参加しやすい。今年は高教組の土・日の街頭署名に合わせて行う予定とのこと。北見支部では、高教組と合同で毎週進めていくとのことでした。

北見支部は8月21日、遠軽・紋別支部は9月7日、各支部ごとのスタート集会を高教組と合同で行っています。これまで各支部で高教組とのとりくみが前進し、目標達成に向けての力となっています。各支部でそれぞれの持ち味を活かしつつも、高教組と協力しながら、多くの人に今の教育の現状を分かっただき、合わせて目標の達成をめざして署名の取り組みを進めていきます。

編集後記

道教組は9月、道高教組など教育関係11団体で「全国学力・学習状況調査」結果発表にあたって「見解」を発表しました。安倍政権がねらう「教育改革」導入に際し参考にしたのがイギリスの「教育改革」です。イギリスでは1988年以降にナショナル・テストを行い、教育基準局の巨大な権限により成績の振るわない学校はつぶされてきました。1993年から2006年頃までの間に59校が閉鎖されたそうです。成績の振るわない学校は学力向上を求められ、対象学校の60%の教師がほとんどいつもストレスを感じていたとの調査結果。11歳・16歳・18歳のナ

今年度、網走教組は昨年と同じ1,000筆を目標とし、9月20日現在416筆で目標の半数に近づいています。11月25日の最終集約めざし、とりくんでいきます。

札幌市内で教育全国署名の宣伝行動 大通公園で多くの市民が署名に賛同

道高教組札幌支部と全石狩札幌教組合わせて10数名が参加し、オータムフェストでにぎわう大通公園において宣伝・署名行動を行いました。家族連れが多く、宣伝行動にはまたとないチャンス。用意した風船に子どもたちが集まりました。

署名を行っている「頑張ってください」と声をかけてくれる市民もいて励まされました。たまたまフィンランドから旅行に来た教師が通りかかり、日本語が堪能なので会話になりました。「日本の教師と交流がしたい」ということでした。

全道のみなさん、これから共に頑張らしましょう。



ショナル・テスト（全国テスト）の結果が、学校別成績順位一覧表となって新聞発表されるのです。小学校の成績順位一覧表でも大判の新聞16ページにも及び、それを大手新聞各紙が一斉に発表し、数万人の親たちがそれに見入るというのです。イングランド以外の地域では、競争主義に基づくテスト体制をやめ、「子ども中心」の教育理念の下でテストでは計れない「総合的な学力」をつけさせることをめざした体制が模索されているそうです。

安倍首相はイギリスの失敗した「教育改革」に学ぶべきです。
(新保)

わたしのとっておき

“とっておき”の写真・絵・短歌・川柳など紙面で紹介できる作品募集。頁下メールアドレスへご連絡を。



「40周年ライブ」

ミックスというバンドを結成して40年。退職しても、バンド活動は現役です。今年の夏も地域のイベントに出演し汗(冷や汗!?)をかきました。(写真右端)

【小西 博光(札幌市稲積小学校)】



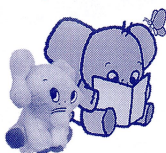
「かこの鳥」

学校のテニスコートで、科学部員と共に保護したカルガモです。翼の骨が折れていました。学校のすぐ側に望月寒川があって、100羽ぐらいのカルガモのねぐらになっています。

【秋山みゆき(札幌市米里中学校)】

全教自動車保険

平成26年1月より大口割引5%導入のお知らせ



小納谷部長
川上企画



全教自動車保険では、「アンケートに答えてドライブレコーダーを当てましょう」のキャンペーンを行っています。加入している方、していない方、どちらにもチャンスです。

提携 東京海上日動火災
保険株式会社

全教自動車保険加入にあたっての5つの特長

- ①無事故割引を他の保険会社や一部の共済から引き継げます
- ②保険料は給料引去または口座振替
- ③ご家族の車でも、何台でも加入OK
- ④退職者もメリット引き継ぎで安心
- ⑤申し込んだその日から安心

手続き

カンタン

自動車保険、マスト、がん保険の問い合わせ先
有限会社 川上企画 (道教組指定代理店)

札幌市中央区南大通西12丁目4-78 ウエスト12 1階
フリーダイヤル 0120-222-789 FAX 011-218-2472

道教組

2014年10月1日発行

発行 全北海道教職員組合 発行者 西野 誠 〒060-0909札幌市東区北9条東1丁目 北海道労働センター 3階

TEL(011)742-0101 FAX(011)742-1001 メールアドレス dokyoso@seagreen.ocn.ne.jp ホームページ <http://www.dokyoso.net>